

【緒言】1987年4月に超小型化洗剤が発売され、また、洗濯機の大型化、センサー式洗濯機の登場、全自動洗濯機の普及など家庭洗濯をとりまく状況は変化してきている。そこで、家庭における洗濯の実態を把握するために大学・短大生・主婦などを対象としてアンケート調査を行った。

【方法】アンケート調査は、1989年7月から9月にかけて学生・主婦など女性440人余りに対して行った。年齢は18～56才にわたり、その主な構成は、学生37%、専業主婦25%であった。住居地は全国にわたった。設問内容は、洗濯回数、使用水、全自動洗濯機の使用状況、使用洗剤、洗濯仕上げ剤、落ちにくい汚れなどである。

【結果】超小型化洗剤の普及はめざましく、使用者は77%に達している。従来の洗剤よりも汚れがおちると感じている人は40%と低く、使用理由の第一は持ち運びが便利、置き場所に困らないという手軽さであった。

全自動洗濯機の利用者は41%と、全国平均にほぼ近い。購入時期については、51%の人が1985年（昭和60年）以降に購入しており、ここ4～5年で急激に普及していることが明らかになった。洗濯は水道水で行っている人が60%と意外に多く、これは調査時期が夏期であったことなどの理由が考えられる。しかし、酵素配合の超小型化洗剤は実際に洗浄実験を行って確認したが、低温での洗浄力は低く問題ではないかと考えられる。また、落ちにくい汚れとしては靴下の汚れ、油汚れなどをあげる人が多かった。